

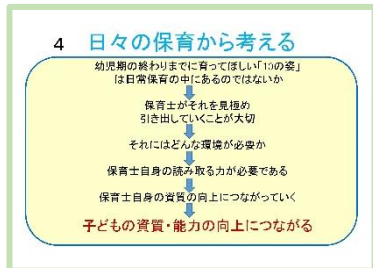


第2回協議会だより 《東方部》

—令和5年10月4日（水）15:00～16:40 音楽・文化交流館 大ホール—

【実践発表】 桃見台保育所

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～



桃見台保育所では、毎日の保育における子ども一人一人の姿を見取り、受け止め、次の活動につなげる支援を大切にしています。

今回の事例にも挙げられていたように、子どもが安心できる環境を整えたり、子ども自ら創造がふくらむような材料を用意したり、異年齢の活動の中で子どもが自ら役割や立場を理解して行動できる場を設定したりするなど、日々の活動一つ一つの意義を明確にし子どもたちにとって自発的な姿が生まれる環境となるように力を入れています。

また、よりよい環境を追求する中で、保育士が、子ども一人一人の自発的な気づきや発見、喜びや悲しみなどの感情等に寄り添うことを大切に関わることで、保育士自身の感性が広がり、子どもたちの一つの体験が次の活動へとつながるような保育士自身の子どもに対する見目が育つなど、資質・能力の向上が認められています。

桃見台保育所のこのような日々の環境づくりと保育士の支援が、子どもたちもよりよい成長につながるものと強く感じられた内容でした。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 桃見台保育所の発表について

- ・クラスごとに特色ある保育がなされ、環境づくりも工夫されていて、子どもたちがわくわくしながら楽しく過ごしていた。日々の保育を振り返るのにいい機会となりました。
- ・異年齢による交流活動を工夫することにより、自主性や思いやりなどの道徳性を育てることができました。

☆ テーマ「遊びを通して育まれる資質・能力について」～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～について

- ・実践発表を聞いて、幼児教育では環境設定が子どもたちの学びと大きく関わっていることがわかりました。
- ・遊びを通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を実践されているのを聞いて勉強になりました。明日からの保育に取り入れていきたい。

《参加者からのアンケートから》

- ・10の姿を改めて分類しなくても、日々の保育の中にあることがわかります。10の姿は小学校の教育にも当てはまります。育てていただいて入学してくる子どもさんを引き継ぐ小学校の責任は重大だと思いました。(小学校：参加者)
- ・連携することの大切さや小学校での関わり方、対応などについて詳しく聞けたので参考になりました。(保育園：参加者)

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。